

こ どう 孤 道

内田康夫・著

単行本: 326ページ

出版社: 毎日新聞出版

発売日: 2017年5月12日

文庫: 368ページ

出版社: 講談社

発売日: 2019年3月15日



〈あらすじ〉

熊野古道にある「牛馬童子」の首が切られたという事件を知った日、浅見光彦は軽井沢のセンセから熊野権現の護符を戴いてきてくれと頼まれる。浅見が熊野古道へ向かう途中、大学の後輩・鳥羽映佑から新たな事件の一報が舞い込む。大阪の八軒家で、鳥羽の知人・鈴木義弘が殺されたというのだ。捜査を開始した浅見は、義弘の祖父・義麿の膨大な日記の中に事件の鍵が隠されていると感じ、一人の男の人生を繙き始める――。

〈登場人物〉

浅見光彦（あさみ みつひこ）……雑誌「旅と歴史」のライター。名探偵。

鳥羽映佑（とば えいすけ）……大毎新聞田辺通信部記者。三千恵に片思い。

竹内三千恵（たけうち みちえ）……藤白神社の巫女に転職した歴女。

鈴木真代（すずき まよ）……田辺市役所職員。鳥羽にネタを提供する。

鈴木義弘（すずき よしひろ）……真代の夫。八紘昭建社長。死体で発見される。

鈴木義麿（すずき よしまろ）……義弘の祖父。五年前に92歳で亡くなった。

松江孝雄（まつえ たかお）……八紘昭建の社員。